

本校の研究の取組について

一人1台端末が全国の児童に貸与されるようになり3年、中野区の研究指定を受けての研究を始めて2年が経とうとしています。去る11月2日には、「研究発表会」という形で、区の内外にこれまでの研究成果を報告する機会を得ることができました。その節は、ご理解・ご協力をいただきありがとうございました。

一人1台端末は、学びの可能性を急速に広げています。これまで受けていた様々な制約の壁を、いとも簡単に乗り越えています。まず、教室に居ながら世界中の最新の情報を瞬時に入手することができます。そして、席に座りながら、学級の全員と互いの考えをリアルタイムで共有することができます。これは、学級だけではありません。他学級、他学年、他校の児童や専門家の方々とも可能です。活動の場所を超越することも可能です。放課後や学級閉鎖中、学校と家とをつないで様々な情報を交換することもできます。最近では、学校行事や委員会活動、クラブ活動など、学級や学年を横断して行う活動の中で強みを発揮しているように感じます。



これまで学校（授業）の常識と捉えてきた様々な教育活動も、近い将来はガラパゴス化、更には生きた化石化してしまうかもしれません。

本校でも、この3年間で培ってきたことを基盤としつつ、常に最新の教育界の動向を取り入れ、自らをアップデートしていくことが必要なのではないかと考えています。

ウィンターコンサート（PTA主催）を終えて

12月16日（土）ウィンターコンサートが体育館で開催されました。昨年は武蔵台小学校吹奏楽団のほか、北中野中学校、武蔵丘高校の吹奏楽部をお招きして3校だけでの縮小開催でしたが、今年はコロナ禍以前の規模に戻り、キッズプラザ（歌とハンドベル）、武蔵台スウィングキャッツ、銀の猫室内合奏団、武蔵台ウインドオーケストラの4団体が復活参加となりました。更に新しい仲間として稔ヶ丘高校吹奏楽部が加わり、大変盛り上がりしました。毎年恒例の小中高合同演奏が4校に増え、総勢約90名と大迫力の演奏になりました。長年続いてきたこのコンサートを楽しみにしていた地域の方々にも多数ご来場いただき、大盛況の中終わることができました。

アンサンブルコンテストを終えて

吹奏楽団は12月26日（火）、東京都小学校アンサンブルコンテストに参加しました。団員全員で演奏するコンクールとは異なり、3～8名のチームを組んで演奏する大会で、管楽8重奏（8名）、木管7重奏（7名）の2チームが参加しました。どちらも練習の成果を発揮し、管楽8重奏が金賞、木管7重奏が銀賞をいただき、管楽8重奏は2月4日（日）に行われる東京都大会の代表に選ばれました。吹奏楽団全体では、この先も朝会での発表や定期演奏会を予定しております。楽しんでいただける演奏ができるよう、より一層努力していきます。

なわとびタイム

12月4日から25日までのなわとびタイムでは、休み時間や体育の授業中に縄跳びを集中的に行い、縄跳びの技能や体力向上を目指しました。子どもたちは各学年に合った技を初段から三段まで合格できるよう、一所懸命に練習しました。自分の目標に向けて意欲的に練習に取り組む姿にとっても感心しました。更に縄跳びだけでなく、長縄にも挑戦しました。各学級で何回跳ぶか目標を立てて、その目標に向けて練習しました。練習を重ねたことで少しずつ上達していきました。また、上手に跳べたら「ナイス」失敗したら「ドンマイ」と前向きに声を掛け合うなど、楽しく運動できるように取り組むこともできました。これからも様々な運動に取り組むとともに、運動の楽しさを味わえるようにしていきます。